

令和4年度 第2回「鳥越地区 まちづくり会議」概要

日 時：令和4年5月6日（金） 19：30～20：30

場 所：鳥越公民館

参加団体等：町会長協議会、白寿会、防犯協会、体育協会、とりごえ子ども会、
南消防団鳥越分団、小学校育友会、民生委員・児童委員、主任児童委員、
食彩館せせらぎ、公民館長、白山市町会連合会理事ほか

発言【1】

- (1) 雪の排出費用を道路の舗装費用へ充当について
- (2) 綿ヶ滝トイレ整備工事に係る設備工事の中で、水道工事区間とほ場整備費業による舗装について

【市】

- (1) 排雪事業がもったいなく思えるかもしれませんが、雪が解ける前に田から雪を排出しないと、田に石が残ってしまいます。田や畑に雪を入れることのお願いと、田畑に砂利が残らないように雪の量が減るギリギリのタイミングを見計らい排雪作業をして欲しいと思います。

今年を除雪費だけで、11億円ほどかかっています。除雪機械を維持するために、市から土木事業者に支払いをしている除雪車の維持管理費（固定費）が安いということで、3年かけて県並みの固定費に徐々に高くしています。そのため除雪費用が更に高くなりますが、今後とも除雪と排雪はしっかりやらなくてはいけないと思っています。

舗装費とは別に白線を引くためのリフレッシュ事業を予算化しており、白線費用は舗装費とは別枠で1億円準備しています。

- (2) ほ場整備は石川県が事業主体となり施工しており、綿ヶ滝のトイレ整備は市の観光文化スポーツ部施設管理課が行っております。このことから、横のつながりがうまくいっていない部分があったかもしれませんが、ほ場整備の担当窓口である農業振興課が間に入り今後は、よりつながりが密になるよう調整していきたいと考えております。

しかし、それぞれの事業の施工工程により、舗装の本復旧に時間を要し、仮復旧のままにしておくことは、道路維持管理に支障をきたすことから、本復旧を早めるよう調整していきたいと考えています。

舗装復旧工事については、国道、県道、市道それぞれ道路管理者の指示によ

り、水道管等の埋設工事の後、すぐに道路（車道部）を開放する必要があることから仮舗装を行っています。掘削箇所に関しては、新たに入れた砕石等が沈下する恐れがあることから3か月以上の養生期間の確保を道路管理者より指導されています。その後、舗装本復旧工事を行っています。

また、石川農林総合事務所 土地改良部整備課と協議を行った結果、今回、市発注の水道管理設区間内では、ほ場整備事業による舗装工事が無いことを確認しております。

ほ場整備については今後、鳥越で更に地域を広げて実施する予定で、国が中山間地域の田を守るため補助を設けている地元負担が少ない内に将来を見据えて整備した方が良く考えています。

- ・ 地元負担は事業費の5%
- ・ 負担額の5/6以内を限度として無利子資金の融資を受けることが可能
- ・ ハード事業完了後、担い手への集積が条件を満たせば、事業費の最大5%を交付

発言【2】

- (1) 「めぐーる」で部活の時間帯に河原山町から釜清水まで行けるバスが欲しい
- (2) 高校生に対する通学費助成制度について
- (3) 小松バスでアイカ(I C a) が使えるようにして欲しい

【市】

- (1) コミュニティバス「めぐーる」については、鉄道や路線バスが運行されていない交通空白地を主に「買い物」「通院」に利用できるよう設定しております。河原山町から釜清水町までは、路線バス「河原山線」が部活動に利用可能な時間帯に運行されていますので、そちらのご利用をお願いします。
- (2) 高校生に対する通学費助成は、(合併前の)白山ろく地域にあったもので、合併後も鶴来駅までの助成を残した制度です。白山市内で白山ろく地域限定の助成制度になりますが、対象生徒が小松方面の高校等に通っている場合、アパート等の家賃を補助する場合を除き、現行では通学の際、鶴来駅までのバス料金が発生しない場合、鶴来駅まで保護者送迎とみなして、自家用車での送迎対象として助成制度を運用しています。

なお、制度の内容等につきましては、これまで以上に周知してまいります。

- (3) 北鉄加賀バス㈱からは、コロナ禍の影響や燃料費の高騰等により、さらに収益が悪化している中、現状の路線を維持しながらの設備投資は大変厳しい状況

と聞いております。

しかし、路線バスは多くの人に移動サービスを提供するインフラであり、将来的な高齢化社会を見据え、今後ますます重要度が高まることから、利用促進や利便性向上のためにも交通系 I C カードの導入について、北鉄加賀バス(株)に求めていきます。

発言【3】

地域コミュニティ組織の必要性について

【市】

地域コミュニティのキーワードは「防災」だと思っています。何かあれば、まずは皆で支えあう、地域の連携を作りましょうということです。公民館活動とは違い、一人暮らし高齢者などの問題を地域の問題として皆で考えていこうという時代になったと捉えていただきたいです。現在の公民館活動が優れているからこそ次のステップにいくということです。

まずは「防災」を手始めにスタートし、行政と連携しながら活動していくことが大切になります。組織から考え始めると、重圧感ばかりが増してしまいます。皆でやるという機運が盛り上がってこそ、地域を皆で考えていくことになります。

例えば、尾口は吉野谷と一緒にしていきたいという話も出ていますので、そのようなことも議論していけば良いと思っています。

発言【4】

人口減少の中でのコミュニティ活動について

【市】

鳥越地域には、鳥越ワカモノの会があり、地域づくりも含めて皆で語り合う場があることは良いことだと思います。白山市はまさに日本の縮図で、限界集落がある一方で人口増加地域があり、政治の力を駆使しても過疎化を止めるのは困難かもしれませんが、色々な人たちの力を借りながら、できる限りのことをして過疎化を遅らせたいと考えています。コミュニティ活動では、無関心な人にいかに目を向けてもらうか諦めず働きかけ、若者や女性も参加できるテーマを皆で考え、一歩前進し、完成形ではなく、できることからやるしかないと思っています。

発言【5】

鳥越地域が子育て・教育環境に優れていることのアピールについて

【市】

子育てに関しては、市長選挙時の公約で18歳未満の子供の医療費の無償化と子供が土・日・夜間でも受診できる場所の確保を実現しました。

そして、松任地域に工業団地がたくさんできて、そこに就職口もあります。車で30～40分で通勤しやすい松任・鶴来地域に工場を作って、働きやすくなるよう進めています。

その中で、白山市は日本で10番目の世界ジオパークを目指すなど特色を持ち、実は、自分たちは住み良い場所にいることに気付いてほしい。地元を誇りを持ち、この地域の良さをどれだけアピールできるかだと思っています。若い人の目線、移住者の目線からの提案も、地域のコミュニティを通して発言してもらえる場所があればいいと思います。

また、白山市では、移住を考えている方へ向けて、大都市圏で開催する移住フェアや移住セミナーに参加し、白山市の住みよさを全国発信しています。その他、移住相談に対応するためオンライン相談も始めています。

今後も、白山市の豊かな自然と住みよさを発信し移住・定住の促進に努めていきたいと考えております。